

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

日本臨床外科学会 国内外科研修に参加して—2020年1月20日から1月26日まで—

山梨大学第1外科

丸山 傑

日本臨床外科学会、国内外科研修の話があったのは、2019年上旬であった。私はこれまで、長期短期問わずに他病院、他施設での研修、手術見学をしたことがなかった。このような、機会があるのは正直、それまで知らなかったが、ふと応募のメールが目につき、ダメ元で応募をしてみたところ、決定のメールが届いた。

研修先選びであるが、学会が選定した施設はどれも実績のある名だたる病院ばかりであったが、私が選んだのは、がん研有明病院。説明はもはや不要であろう。上部消化管外科を志す、私は、食道外科を選択した。

研修初日、ガチガチに緊張した私を、迎えてくれたのは暖かい雰囲気。このような大病院でwelcomeモードなことは、驚いた。ここから、怒濤の1週間が始まった。週5の、毎日、食道亜全摘。頭頸部外科のような頸部郭清。高位での手縫い吻合。胸腔内吻合。2時台に終了する食道亜全摘。見たことのないような、美しい106recRL郭清。突然、英語で始まる消化器外科カンファレンス。そして、活発な議論。毎週行われる、消化器合同カンファレンス、食道カンファレンス、リサーチミーティング、抄読会。

さらに、チームを超えて、胃外科の手術も見学させていただいた。暖かいレジデントの先生方に、チームを超えて、夜、交流させていただき、食道外科の先生には歓迎会も開いていただいた。

驚くべきは食道外科の雰囲気よさ。もちろん、どう考えても忙しい、食道外科。皆で協力して、働き方改革にも率先して、取り組んでいることにも驚き。今まで、医者には当てはまらないと思っていたが、やり方次第では、様々な働き方改革が可能ではないかと思った。さらにその時間で、ゆっくり休むこともでき、家族との時間もでき、同僚やチームでの交流を深めることもでき、手術の勉強、論文執筆、基礎研究など幅が広がる。食道外科は本当のone team。良いチームだった。

この、1週間。聞き耳を立てて、一つ一つを貪欲に吸収しようとし、メモ帳1冊ビッシリメモしたのは、いつ以来であろうか。さらに自分より学年は下でも、明らかに自分より優秀なレジデントの先生達。負けたくない、久々にわき上がってくる闘志。

現在、大学病院の若手外科医ということで、日々のいわゆる雑務は多い。その中で、日々、外科手術手技の向上や、論文執筆を行っているのだが、どうしても、雑務に溺れてしまう。日々の雑務をこなすことが多くなり、外科医としての、academic surgeonとしての向上がどうしてもおろそかになってしまうことが多い。

国内外科研修から、帰ってきてからの数週間。この1週間で受けた刺激は、さらに大きくなっている。1日1日を無駄にせずに、成長の心を忘れずに、日々精進している。さらに、改めて感じさせられたone team。目指すべき高みにむけて、個人だけではなく、皆でone teamで駆けのぼっている。私は、帰ってすぐに、上司に、がん研有明病院でのレジデント希望を伝えた。このすばらしい環境で、さらに成長し、山梨に多くのことを持って帰ってきたいと。

最後にこのような機会を与えてくださった、国内外科研修委員会委員長の高山先生、日本臨床外科学会のみなさま、受け入れてくださったがん研有明病院渡邊先生、スタッフやレジデントの皆様、快く送り出してくださった山梨大学第1外科の市川教授や先生方に感謝申し上げます。